

<< 注意報 >>

岡病防第10号

平成28年6月8日

各関係機関長殿

岡山県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報の発表

病害虫発生予察注意報第1号を下記のとおり発表したのを送付します。

平成28年度病害虫発生予察注意報第1号

平成28年6月8日

岡山県

病害虫名 **モモせん孔細菌病**

1. 発生が予想される地域

県下全域

2. 発生 of 蔓延が予想される時期

6月上旬以降

3. 予想される発生程度

多

4. 注意報発令の根拠

(1) 前年のモモせん孔細菌病の発生は平年よりやや多く、越冬伝染源量が平年より多かったと考えられる。

(2) **6月3日の巡回調査における発生圃場率は50.0%**で、過去に本病の注意報を発表した平成17年6月上旬の69.0%よりは低いものの、平年(11.0%)より高く、**過去10年で最も高い数値**となっている。また、一部の圃場では幼果での発生も認められた。

(3) 中国地方では6月4日頃に梅雨入りしており、**降雨が続くと病勢が急速に進展する可能性がある**。

5. 防除対策及び防除上の参考事項

(1) 発病枝は伝染源となるので見つけ次第除去し、処分する。また周辺の発病葉もつみ取る。

(2) 果実への感染を防止するため、早めに袋かけを行う。袋かけは、下記の薬剤を散布後速やかに行う。

(3) 病原菌は葉や果実の自然の開口部(気孔など)や傷口から侵入するので、風当たりの強い圃場では防風ネット等の防風対策を施す。

(4) 平成28年度植物防疫情報第3号、第4号参照

【収穫7日前まで使用できる主なせん孔細菌病の防除薬剤】

(H28. 6. 6現在)

薬剤名	農薬使用基準		
	希釈倍数	時期	回数
スターナ水和剤	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
バリダシン液剤5	500倍	収穫7日前まで	4回以内
マスタピース水和剤 ^{注1)}	1,000～2,000倍	発病前～発病初期	—

注1) マスタピース水和剤は生きた微生物殺菌剤であるため、単用が望ましい。また、夏期は冷蔵保存するのが望ましい。

薬剤の使用に当たっては農薬使用基準を厳守し、人畜、水産動物等への危害防止に努め、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等へ飛散しないよう十分注意する。なお、**収穫期が近い場合の薬剤散布は、特に収穫前日数をよく確認して行う。**



葉の症状



幼果の症状

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。